

# 広尾病院の改築に係る検討経緯について

◎広尾病院の課題…施設の老朽化への対応、基幹災害拠点病院としての機能の維持・強化

## 検討経過

## 説明（論拠、外部調査等）

26年5月 広尾病院の改築に向けた検討を開始

### 【検討の手順】

- ①整備手法…現地建替、全面改修、移転の3つの選択肢を検討  
→適地があれば、現地建替・改修よりも移転に優位性
- ②移転検討の視点…同一医療圏内であり、交通利便性を考慮
- ③適地の選定条件…(1)現広尾病院と同一区内 (2)一定の面積（現広尾病院以上）(3)現実的な土地の確保可能性を基本に  
基幹災害拠点病院としての機能を確保できる候補地を検討  
→具体的には、現地建替・改修のほか、旧青山病院跡地、旧青山病院跡地とこどもの城跡地施設との合築、当時移転可能性のあったNHK本社所在地等について想定

### ＜現地建替の場合＞

敷地が狭いため、全面休止を避けるには、段階的な整備が避けられず、長期にわたる診療制限の影響※が大きいことに加え、特に24時間緊急対応が可能な体制が求められる**基幹災害拠点病院としての機能維持等に支障**  
※駒込病院、墨東病院、豊島病院の実例はいずれも7年超。その間、患者受入が縮小

### ＜移転の場合＞

工事の間も現病院で事業を継続するため、首都直下地震が想定される中、**基幹災害拠点病院として切れ目ない機能の維持が可能**

- ・二次医療圏ごとの基準病床を勘案
- ・広尾病院の居住地別患者割合は、渋谷区17%、港区16%、目黒区11%、品川区11%、島しょ11%、都外10%、世田谷区7%、大田区4%であり、交通アクセスを考慮する必要

27年2月 〔広尾病院〕病院の現状に関する調査を実施

27年4月 国から「こどもの城跡地」取得の打診

27年5月 〔広尾病院〕改修・改築手法に関する調査を実施

27年6月 現地建替・青山移転案（こどもの城跡地を含む）を軸に検討

参考資料3

27年10月 「こどもの城跡地」が取得可能な場合、青山移転の方向性を知事に説明し、了解

28年1月 予算原案発表  
（移転改築に向けた基本構想検討費、用地取得費を予算計上）

28年3月 都議会での審議・可決

参考資料5

### ① 「医療機能のあり方調査」（27年3月報告）

参考資料1

- ・改築の検討に際し、病院のあり方を考える上で必要となる基礎調査
- ・患者動態に即した6区（渋谷、港、品川、目黒、世田谷、大田）を診療圏としており、調査結果は現在地だけでなく、近くの移転候補先にも適用可能

### ② 「改修・改築のあり方調査」（27年6月報告）

参考資料2

- ・現地建替え、全面改修、移転新築の3パターンについて、それぞれ一定の想定の下、各案における課題を抽出・整理

### ③ 「整備に係る調査」（28年1月報告）

参考資料4

現地建替案、青山移転案について、設計会社の視点から、それぞれの敷地に建つ施設のモデルケースを仮定し、整備に伴う課題を整理